

テレビ放送事業の現在と将来 ——チャンネル割当の見地から（寄書）

2013年3月

本稿では、「放送チャンネルの割当」という見地から放送政策の現在と将来について考えてみます。

I. テレビ多重放送の導入

- ① 「東京メトロポリタンテレビジョン」(MX)は2008年8月から多重TV放送を行いました。6MHzをHDTV放送とSDTV放送に分けてHDTVではレギュラー放送、SDTVでは東京証券取引所の刻々変わる株式情報を定点カメラから中継放送しました。株式情報には無店舗のネット証券会社がスポンサードしています。その分だけ増収となりました。
- ② 「テレビ大阪」は2012年5月1日 ナイター中継放送が20時54分の放送終了時に終了していなかったために、21:00からのレギュラー番組「開運なんでも鑑定団」を第一放送でHDで行い、第二放送をSDTVでそれまでのナイター中継を継続して行いました。延長されたナイター中継放送には、定刻までの広告主の広告がそのまま放送されたので、広告主にとってSDTV広告露出は契約料金のままの、いわばおまけとなりプラスとなりました。また、第一放送 第二放送の合算視聴率はレギュラー編成視聴率を上回る成果を得たこととなります。
- ③ 読売テレビは本年2月10日 阪神 vs 日本ハム練習試合をメインチャンネルでHDTV放送を行い、サブチャンネルでSDTV番組「新庄剛志タイガースを語る」を放送したはずですが。この他にもNHKは折々多重放送（TV局はマルチチャンネル放送と呼称しています。）を行っています。

II. デジタル放送の画質

ブラジルはわが国デジタルHDTV方式の「ISDB-Tmm」を採用しています。ブラジルの放送事業者に対する周波数割当は8MHzと、わが国より2MHz分帯域幅が広いのですが、8MHzで3chのHDTV放送をしています。わが国と同様にワンセグも行っているのので、1ch当り2.6MHz～2.7MHzでHD放送していることとなります。

問題は画質です。同じHDTV放送でも2.6MHzと6MHzとではPixel数解像度において大きな差が発生します。HDTVに転換する以前のSDTV時代、わが国のSDTV放送の画質はもっとも秀れた、美しいものでした。1953年にわが国のTV放送が米国RCAの「NTSC」

方式を使ってスタートして以来、NHK を中心とする放送技術者たちは画質向上にとり組んできました。その結果、見事な SDTV 画質を得ることができました。

2003 年。東京・大阪・名古屋などの基幹局は SDTV と共に新しいデジタル HD 放送を始めました。そして 2011 年の SDTV 放送終了までにデジタル HD 放送のすばらしさを視聴者に伝え、デジタル HD 放送受信機の普及を促すことになりました。そのためには大型化され薄型のテレビ放送が受信機を買い換えに値する画質でなければなりません。キレイな SDTV をよりキレイな HDTV にするために 6MHz をフル活用してきました。従って多重放送の試みには消極的でした。

もう 1 つ多重放送に着手しないことは、6MHz のビットレートがエンコーディング技術の進歩によって余剰スペースが生じると、その余剰スペースを返還すべしとの声の出ることを警戒したためでしょう。

従って、前例のテレビ大阪も読売テレビも 6MHz をどのように分割したかを公表していません。多分民放連から注意されたように予想します。

III. デジタル放送用周波数帯について

アナログ放送からデジタル放送に転換する際に、MPEG II を採用して、世界の国々が使用した H.264 を採用しなかったことが批難されました。仮に H.264 を採用していればアナログ VHF 帯 UHF 帯 360MHz は 120MHz で収容できたはずですが、ところが MPEG II のために 240MHz を充当されることになりました。なぜ MPEG II としたか。その理由に、2001 年を目標とするデジタル放送開始には H.264 の国際標準が間に合わなかったこと。MPEG II で数年かけて何回か試験放送してきて漸く安心して実用化できるとしたことを優先したい、と説明されています。

同時に、放送事業者が 360MHz が一挙に 120MHz に縮減されて、そのスペースが通信事業者によって占有されることを嫌ったとの本音のあったことを聞かされています。メディアの王者たる放送権益が通信主導となることへの抵抗があったのでしょう。

ソフトバンクの孫正義さんは主張します。「TV 放送には 470MHz 帯から 710MHz 帯を使用しているが、470MHz から 650MHz で充分なはず。650MHz から 710MHz の 60MHz 分は割当返上すべしと。」

たしかに、スマホやタブレットの登場によるリッチな動画配信で、移動体周波数はダウンの危機を抱えていて、WiFi を使って光ファイバーにリンクして逃げている状況にあります。TV 放送の 1MHz~1.5MHz は返還させて、それを新規参入者を重点に入札にすべてとの主張があります。

米国政府は、放送周波数を 120MHz 分 4G のために返還させる方針を示しています。わが国 TV 産業の広告収入は 2008 年の 2 兆円から 1 兆 7000 億円へと 15%、3000 億円低減しています。周波数政策を国民経済的視点で転換させるべきです。2015 年のわが国 4G 割当が再び、三たび、ドコモ・KDDI・ソフトバンク 3 者でいいのか、と思います。

2011 年の「周波数オークションに関する懇談会」の答申に沿って総務省は昨年の国会に電波法改正案を提出しました。しかし審議入りできず、政権が替わった今国会では法案提出をしないとしています。自民党は既得権益擁護で周波数オークションに反対だからでしょう。困ったことです。落胆しています。

IV. スーパーハイビジョンは未来のテレビになるか？

さらに、放送の 6MHz を維持する事態が生じました。それは総務省が自ら旗を振る「4K 放送」の推進です。4K は現在のフル HDTV の左右 1920PXL×天地 1080PXL の 207 万 Pixel から、左右 4096PXL×天地 2160PXL の 885 万 Pixel へと 4 倍の解像度を有する次世代 TV 方式です。

既に UK の「Sky TV」（衛星放送）、韓国の地上波で 4K 試験放送が始まりました。US でもハリウッド映画がソニーの 4K カメラを使って映画撮影をしていて、それをフィルム使用の映画館や 2K 映画館を 4K 化していくことを狙って動き始めました。

総務省「放送サービスの高度化に関する検討会」では、4K とさらにその次の 8K に関する WG を組織して 3 月をメドに実用化・普及計画・推進体制をまとめ、本年 7 月のブラジルにおけるワールドカップ・サッカー・ワールドカップ決勝トーナメントから本放送に入るロードマップを作成しています。

そのために平成 24 年度補正予算に 4K のテストベッドを含む 31 億円を計上しています。アナログ TV 放送の終了は 2011 年 7 月でした。それから 1 年半。デジタル TV 受信機の買い換えには遠く、4K テレビなど売れるのか、と思いますが総務省は強引に進めています。4K によって日本の TV 受信機メーカーの低迷を救う意図もあります。

4KTV 放送は現在のデジタル HDTV の 4 倍の画素ですから、6MHz では MPEG II でも H.264 でも放送できません。そこに新しい符号化技術「HEVC (High Efficiency Video Coding)」が登場し、国際標準となりつつあります。「HEVC」は H.264 の 2 倍の圧縮率を可能としていますので、現在の TV 局の 6MHz で 4K 放送が可能となります。

従って、現在の HD 放送が 4.5MHz で成立して、1.5MHz が余剰であっても 4K 放送のために割当変更はしないことになります。

放送政策、電波政策はこのままでよいのでしょうか(?)。